

地域にあった飼料米栽培技術の検討

大津・南部農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

大津市北部では農家の麦・大豆への生産意欲が低く、地力増進作物としてレンゲが多く作付けされています。しかし、既存の稲作の機械を活用して転作できるメリットから、平成20年度に飼料米を生産し地元の養鶏農家へ供給する取組が始められました。飼料米の相場価格はおよそ30～40円/kgと低いことから、経営上、低コストと多収が望まれます。

当課では 低コスト多収施肥体系を目指す生産グループ、鉄コーティング直播栽培による省力化を目指す青年農業者の2つを対象として、栽培技術の確立および定着にかかる支援を行いました。

【普及活動の成果】

(1) 栽培方法の検討

双方に、適宜、技術情報を提供するとともに、展示ほを設けてデータを収集し、最適な栽培方法について検討しました。

に対しては、安価な硫安を主体として、基肥に鶏糞やヘアリーベッチを利用した展示ほを設けました。その結果、基肥に鶏糞も用いると比較的多収となることがわかりました。そこで来年度からは養鶏農家の鶏糞を積極的に活用していくことになりました。

が試みた鉄コーティング直播栽培では、移植栽培に比べて作業時間を短縮できたうえ、予想以上に高い収量を得られたため、対象者は来年度も継続する意向を示しています。

(2) 乾燥調製方法の検討

飼料米も長期間保存するためには水分を15%以下にすることが必要です。立毛乾燥だけでは水分15%以下にすることは難しく、収穫後の乾燥調製の方法やコストが懸案となっていました。

そこで、農家や関係者が話し合う場を設け、できるだけ立毛乾燥を行い収穫すること、収穫後の仕上げ乾燥で水分を15%に調製すること、乾燥機を持たない農家は5円/kg初で乾燥を委託することが合意されました。その結果、養鶏農家は全量、水分15%以下に調製された飼料米を購入できることになりました。

大津市北部ではさらに飼料米生産が増える余地がありますので当課では引き続き飼料米生産の定着と拡大を支援します。



飼料米研修会